



吉村 範明(よしむらのりあき)議員

一問一答

GIGAスクールについて

◆GIGAスクール構想について

Q 構想の目的は。

A 教育を知識伝達型から、学びを人生や社会づくりに生かす力の育成へシフトすること。

Q 全国の端末の整備状況は。

A 98・5%の自治体が今年度内に整備完了予定。

Q 本市は。

A 令和2年12月末に小中学生1人1台タブレットが整備済。

◆本市の取組について

Q 指導のための教員研修は。

A 40回の研修と授業実践モデルや動画マニュアルの作成。

Q どのような授業を行っているのか。

A 子供たちが主体的に教科書等を収集、考察し、課題に取り組む自立した学びの授業を行う。

Q 宿題等の取り組みは。

A 自宅で授業を振り返り、学びを深める、A-1型学習ドリルでの補充的な学び等。

Q 各家庭での端末の使用やネット等の環境は。

A ルーター貸与や準要保護世帯の通信料支援等。

◆これまでの課題について

Q 一年経ち授業での課題は。

A 生徒の情報格差が課題、日常的なICTの活用が必要。

Q 低学年の対応は。

A 鉛筆での学びも重要、ICT活用は長い目を持つことが大切。

Q 校外活動等での故障について修理の件数とその対応は。

A 令和3年度現在修理件数は119件、不慮の落下が多く、この場合修理費は、教育委員会が負担。

◆これからの取組について

Q 先進的な事例は、また、新たな授業形態はあるのか。

A プロジェクトチームの指導モデル作成等組織的に取り組んだ。

Q 急ピッチに進めてきたように感じる。今一度現場での意思疎通を図るべき。

A 早急な事業だったが、今後とも家庭と子供と学校と地域が一体で取り組んでいかなければと思つた。



片山 瞬次郎(かたやましんじろう)議員

一問一答

要配慮者への避難助成

◆新型コロナワクチン接種の状況

Q 3回目の進捗と小児への接種状況は。

A 2回接種済の18歳以上を対象に実施。5歳から11歳の小児接種は3月からスタートする。

Q 副反応の発生状況は。

A 小児の副反応の疑いは現在41件、大半は軽いのと報告。

◆学校給食費の無償化事業とインフラ整備進展に伴う財政への展望

Q 中学校学校給食費の無償化と市の事業見直しは。

A 見直しにより、2億2千万円余を確保、予算編成や法人市民税の回復を見込、計4億1千万円を定期的に確保可能財源と見込む。

Q 永続的な支出での財政に与える影響は。

A 継続確保見込の財源で実施するので、継続的に事業実施できる。

Q 今後の新規インフラ整備進展に伴う財政への展望は。

A 市債を財源にできない経費で、実質公債費比率、将来負担比率に影響はない。

◆小松市の移住政策について

Q 小松市の利点と取組への所感。

A 日本航空(株)とワーケーションやデュアルライフ(2拠点生活)促進への連携を促進していく。

◆自販機リサイクルボックスの異物混入

Q 異物混入調査と認識は。

A 事業者が自主的に設置、異物の割合は把握していない。生ゴミなど事業系一般廃棄物は、エコロジープークこまつで受入れ可能。

◆小松市の浸水区域内の避難所

Q 浸水想定区域とは。

A 千年に1回程度降る大雨により、河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域。

Q 当区域内避難所の実情と対策は。

A 指定避難所は、40・3%が浸水想定区域内に立地。水害時開設避難所17か所。内、1階の浸水想定が14か所。要配慮者の、宿泊施設に避難のため助成制度を創設。警戒レベル3以上の地域で宿泊代金の3分の2、1泊5千円を上限とする。

予算決算常任委員会総括質疑

◆会派自民◆



竹田良平 委員

◆いしかわ百万石文化祭2023開催準備費

500万円の予算について、令和4年度の取組は。

リードこまつや博物館の特別展等のプレイベントを予定。

こまつ文化の祭典「リードこまつ」について、百万石文化祭と連動した取組は。

来年度は県内外の文化団体を小松に招き文化交流、地域間交流を考えている。

◆学校給食無償化推進費

今後子育てしやすい街として、市の人口増にどうつなげていくか。

「子育てするなら小松」を積極的にアピールし、定住人口の増加につなげていきたい。

無償化により質が落ちることのないようどう考えていくか。

物価上昇等に備え基金を活用するなど質の確保に努めたい。

◆はたらき障がい者支援費

令和4年度、新たに開始される企業向け講演会について。対象企業の選定は。

調整中だが、障がい者雇用を検討している市内企業や就労支援事業者など広く参加を募っていききたい。

働く場所の選択肢が広がるよう期待されるが、講演会を今後どのように進めていくか。

幅広い周知を図り、オンライン等も含めて多くの方が参加できるように工夫していきたい。

幅広い周知を図り、オンライン等も含めて多くの方が参加できるように工夫していきたい。



東浩一 委員

◆次世代型地域交通推進費

小松版Maas(Mobility as a Service)路線バス運行とオンデマンド交通の効率化等について。

バス路線の廃止や大幅な減便となる地域にはオンデマンド交通の導入など、生活者や来訪者に利便性の高い移動手段を構築したい。

小松版Maasを、どのように進める予定なのか。

小松版Maasを、どのように進める予定なのか。

地域住民の移動環境の維持、向上のため、利用者が少ない区間の運行を見直し、予約制タクシーの運行を検討している。交通事業者、地元関係者とも調整をしており、地域住民の利便性向上のため新たな仕組みの早期運行を目指したい。

地域住民の移動環境の維持、向上のため、利用者が少ない区間の運行を見直し、予約制タクシーの運行を検討している。交通事業者、地元関係者とも調整をしており、地域住民の利便性向上のため新たな仕組みの早期運行を目指したい。

◆森林環境保全推進費

本市における活用状況、積立金について。

間伐や緩衝帯の整備、木育活動での活用のほか、かが森林組合でも床材や家具等で広葉樹の利用を工夫、それに向けた普及啓発、教育活動も進めている。

基金残高は令和3年度末で5、255万3、000円の見込みである。

ゼロカーボンシティ実現に向けた家庭への支援・取組

新たな支援・取組について。

既存住宅の小規模な断熱窓導入に対して補助率4分の1、限度額5万円の補助制度を創設するものであり、ゼロカーボンアクション30は、広報こまつ等で紹介するなど取組を周知していきたい。

既存住宅の小規模な断熱窓導入に対して補助率4分の1、限度額5万円の補助制度を創設するものであり、ゼロカーボンアクション30は、広報こまつ等で紹介するなど取組を周知していきたい。

◆公用車をEV車へ更新

給電設備の設置場所や台数、市民の利用などについて。

来年度5台をEV車へ更新予定で今回の給電設備は一般向けの利用等は予定していないが、本市の公共施設においても、ゼロカーボンシティの実現に向けて給電設備の適正な配置を検討するなどEV車の普及拡大を進めていきたい。

来年度5台をEV車へ更新予定で今回の給電設備は一般向けの利用等は予定していないが、本市の公共施設においても、ゼロカーボンシティの実現に向けて給電設備の適正な配置を検討するなどEV車の普及拡大を進めていきたい。

◆自民党こまつ◆



川崎順次 委員

◆栗津駅周辺整備費

栗津駅東西の連絡通路が必要で、国・県との連携が重要。今後どのように整備するか。

駅西側では自由通路の乗降口となる広場整備、駅東側では駅前広場の優先道路が不明確な交差点の安全性の向上のため改修を計画。令和8年度末を目標に完了したい。

駅西広場は楸コマツ、串工業団地、大学等があり加賀市との連携も必要だ。栗津駅周辺地域住民や地元企業と連携し、利用客を増やすため意見交換をしてはどうか。

駅西広場や駅東側の広場の道路改修については、駅の利用実態を把握し、今後の利用者増加等を見据え、最終的に駅西側の未利用地の活用も視野に周辺町内会、温泉、工業団地等の意見を取り入れ計画に反映したい。

駅西広場や駅東側の広場の道路改修については、駅の利用実態を把握し、今後の利用者増加等を見据え、最終的に駅西側の未利用地の活用も視野に周辺町内会、温泉、工業団地等の意見を取り入れ計画に反映したい。

駅西広場や駅東側の広場の道路改修については、駅の利用実態を把握し、今後の利用者増加等を見据え、最終的に駅西側の未利用地の活用も視野に周辺町内会、温泉、工業団地等の意見を取り入れ計画に反映したい。

Q 駅の無人化について加賀市は大聖寺駅、動橋駅を市が運営しているが、本市はどのように検討し、整備するか。

A 現在のところ、大聖寺駅のような利用は未定である。2024年春には新幹線が開業し、在来線は1Rいしかわ鉄道に経営分離される。地域の方の意見等があれば、必要に応じて活用方法等を検討したい。

Q 次世代型地域交通推進を粟津駅発着路線バスにも出来ないか。また、シェアサイクルの設置は。

A 路線バスの再編、地域の実情に合った代替交通の導入、財政負担のバランス等を考慮した再編プランを策定し、小松版Maasを構築したい。粟津駅にもシェアサイクルを導入する予定である。

Q 全ての児童生徒に学びの機会を（ステッフルーム支援費）

A テップルームの取組。
児童一人一人の様々な悩みや困難さに寄り添い、自己を大切にしている現状を少しずつ解決できるように支援している。

Q 旧金野、波佐谷小をアニマルセラピーの拠点施設として利用できないか。

A 公有財産の有効活用の検討にあたっては、民間活用をベースに公・民間問わず幅広い提案を求めたい。

こまつ未来



二木攻 委員

こまつまるごと観光物産推進費

Q 観光物産ネットワークの設立の時期および経緯について。

A 本市の観光物産資源の開発や振興、観光客の誘致の促進等により事業の健全な発展を図り、地域経済の活性化と地域文化の振興に寄与する事を目的に平成25年10月1日に設立。

Q 事業内容と今後の展開について。

A アンテナショップの運営管理、ふるさと納税の返礼品取扱、観光資源開発事業を行っている。収益事業は事業内容を見直しながら、補助金の適切な対応に努めたい。

Q 企業誘致推進費

A 企業立地助成金は6千万円減の1億円、企業誘致活動事業費は100万円増の300万円を計上。新たに造成予定の企業もあり、その際は補正対応したい。

Q 予算内訳と今後の見通しは。

A 企業立地助成金は6千万円減の1億円、企業誘致活動事業費は100万円増の300万円を計上。新たに造成予定の企業もあり、その際は補正対応したい。



無会派



木下裕介 委員

北陸新幹線開業プロモーション費（シェアサイクルの設置）

Q 導入台数は。

A 約60台を設置する。1Dによる予約決済を予定している。

Q 既存のレンタサイクル事業との兼ね合いは。

A 今後、事業者の提案も含めて考えていく。

Q 自転車専用レーンの整備を。

A 前向きに話し合っていきたい。

Q 小松版Maasと小松地域交通プランの位置づけは。

A 整合性を持ちながら進めたい。



橋本米子 委員

要介護高齢者の介護用品購入助成について

Q 家族介護用品支給事業の利用人数と事業費について問う。

A 令和3年2月現在で対象者数1,081人。任意事業1、800万円、保健福祉事業2、070万円。

Q 任意事業費と保健福祉事業費の2区分の説明を問う。

A 市民税課税者は任意事業対象外のため、保健福祉事業を創設。介護用品支給は大切だ。自己負担1割導入の理由を問う。

Q 国の方針として、介護用品支給事業の廃止・縮小に向けた見直し期限が令和5年度末と示されていることから、1割負担を導入するものがある。

Q 保健衛生総務費・小松准看護学院の移転整備に係る補助金

A 小松の医療機関等の看護師の総数は。

A 医療機関、介護施設の看護師は、令和2年末、1、544人。

Q 看護師人材の育成支援に対する考えは。

A 小松准看護学院の存続は重要で、教育充実のため支援していく。

Q 保健衛生総務費・運営費補助金を増額

Q 運営費の概要と補助金の市の考え方。

A 教職員給与、維持管理費等年約4千万円。安定運営のため、補助金を恒常的に継続していく。



片山瞬次郎 委員

常任委員会 審査報告

予算決算

委員長 高野 哲郎
副委員長 川崎 順次
全議員所属

議案第2号 令和4年度小松市
一般会計予算について

■学習等供用施設建設費 (23,700千円)

今江北、荒屋、浮柳、小島地区の施設改修のための設計業務に係る費用等に関する助成費用です。

地元負担が少しでも安くなるよう国への要望を求める意見がありました。

■新幹線小松駅開業プロモーション 費(18,000千円)

能美市と連携して2024年新幹線小松駅開業のプロモーションを展開する費用です。

加賀市とも連携を深めて実施してはどうかという意見がありました。

■次世代型地域交通推進費 (37,000千円)

持続可能な地域公共交通体系を構築する費用です。

地元との協議を重ね、前向きに取り組んでほしいという意見がありました。

■住民基本台帳システム運営費 (24,000千円)

住基ネットにオンラインで繋がる端末のリース料等のほか、郵便局10局でマイナンバーカード申請サポートを行う委託料等に要する費用です。

■防災体制強化費 (45,200千円)

避難所に配備してある防災備蓄物品の購入や更新等に係る費用です。備蓄物品の保管について適正管理することも検討してほしいという意見がありました。

■保育士等処遇改善臨時特例費 (76,000千円)

保育士等を対象に収入を3%程度引き上げるための措置で、全額国庫補助の対象であり対象期間は令和4年9月までです。国の通知では、10月以降は私立こども園等運営費として、処遇改善の効果を継続していくとのことです。

■予防接種費(312,200千円)

予防接種法に基づき定期予防接種等に係る費用です。令和4年4月から子宮頸がんワクチンが積極的勧奨になり、小学校6年生から高校1年生に個別通知が再開されます。

機会を逃した方に適切に通知が届くよう求める意見がありました。

■学校給食無償化推進費 (188,000千円)

中学3年生を対象に開始した学校給食無償化を中学生全学年に拡大する費用です。

所得制限を設けて実施すべきではないかという意見や財政の健全性を保持するよつこの意見がありました。

■ひととものづくり科学館魅力アップ費(144,100千円)

3Dシアター映像機器などの更新等に係る費用です。

集客アップのため、様々な取組を

行つて欲しい等の意見がありました。

■こまつまるごと観光物産推進費 (77,900千円)

こまつ観光物産ネットワークの活動運営補助費等です。

空の駅こまつ、空カフエ等はコロナウイルス感染症の影響を受け、売り上げが大きく減少しています。

市の観光や物産を総合的に勘案して、現実に即したあり方を早急に検討すべきとの意見がありました。

■加賀国府こまつ歴史再発見費(1,400千円)及び加賀国府こまつ歴史の里整備費(105,500千円)

加賀立国1200年に向けた調査研究・魅力発信及び国府関連の施設等環境整備事業です。

国府の全体像がイメージできるような展示改修を行うよう求める意見がありました。

■末広陸上競技場改修費 (186,000千円)

日本陸上競技連盟第2種公認更新に伴う改修工事費等です。

全国規模の大会や多くの観客が誘致できる大型スタジアム等の施設整備に取り組んでほしいと求める意見がありました。

■労働者福祉推進費(3,000千円)

労働関係団体補助金及び育児・介護休業取得支援事業費等です。

申請が例年少ないので積極的にPRしてほしいとの意見がありました。

■小松市再生可能エネルギー設備設置補助金(6,300千円)

住宅用太陽光発電等の再生可能エネルギー設備を導入される方への補

助制度です。また、「ゼロカーボンアクション30」は、「日常生活の脱炭素行動とメリット」を整理したものであり、2050年のゼロカーボンシティの実現に向け取り組んでいくとのことです。

■栗津駅周辺整備費 (117,000千円)

駅西広場整備にかかると基本設計費及び用地取得費です。

鉄道管理者や県との関係を強固にしながら、早期着工に向け、引き続き取り組むよう求める意見がありました。

議案第4号 令和4年度小松市介護保険事業特別会計予算について

■家族介護用品支給費 (18,300千円)

市民税非課税者に対する助成制度であり、継続助成の場合は、事業の廃止・縮小に向け方策を検討することが国の要件であり、方策として1割負担を導入することです。

利用者への配慮から、国に事業継続の働きかけを行つてほしいという意見がありました。

議案第7号 令和4年度小松市後期高齢者医療特別会計予算について

後期高齢者医療特別会計について歳入歳出の予算額は17億5,000万円であり、対前年度比1億500万円の増加となります。被保険者数は対前年度比5.49%の増加で17,073人となる見込みです。